

平成29年第1回 名張市地域公共交通会議 事業推進部会 議事概要

日時 平成29年4月18日(火)

午後1時より

場所 名張市役所 404会議室

近鉄名張駅、桔梗が丘駅

出席者：(敬称略)

(1) 委員

中平 恭之(近畿大学工業高等専門学校准教授)

豊永 育子(公益社団法人三重県バス協会)

木寺 正仁(市民公募)

勝木 祥文(名張商工会議所 総合商業部会長)

田中 明子(名張市地域環境部長)

(2) 事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. あいさつ

3. 内容

(1) 公共交通乗車調査

<行程>

名張市役所 ⇒ 桔梗が丘駅 ⇒ 名張駅 ⇒ 名張市役所

(ナッキー号利用)

(ナッキー号利用)

(ほっとバス錦利用)

<実施内容>

鉄道駅におけるバスに関する情報提供の状況、バス停位置の分かりやすさ、乗継利便性等を現地で確認するとともに、各駅へ向かう際にコミュニティバスを利用し、コミュニティバスの車内アナウンスや広さ、乗り心地等を確認する。

<意見>

○名張市役所

- ・市民広場側と議会棟側にバス乗り場があり、庁舎内に案内掲示はあるものの分かりにくい。

- ・既存のバスロータリー（市民広場側）に全てのバスが乗り入れるようにしてはどうか。
- ・バス停に停留所標示がたくさん立っており、表示内容もバラバラでわかりにくく、表示板の並び順も配慮が必要。
- ・屋根付きの待合場所があるが、バス路線図や主要な目的地への乗車案内など利用者に対する情報提供の場としての有効活用が必要。

○桔梗が丘駅

- ・バス路線図がない。
- ・市外からの利用者には非常にわかりにくい。
- ・駅の両側にバス停があり、わかりにくい。
- ・コミュニティバスと路線バスで停留所名が違うものがある。駅の表示と合わせるべきだと思う。
- ・停留所の表示が時刻表だけではどこに行けるのかわからない。観光PRの情報等も載せれば住民以外の乗車も期待できるのではないか。
- ・鉄道の改札を出て、明確なバス乗り場の表示、行先案内がない。
- ・目的地への所要時間がわからない。
- ・駅の出口の表示が北口・南口なのか、西口・東口なのか統一されていない。
- ・バス停に停留所標示がたくさん立っており、表示内容もバラバラでわかりにくい。

○名張駅

- ・駅西口のバス乗り場がどこにあるのかわかりにくい。
- ・路線図、時刻表、乗降場所のすべてがわかりにくい。
- ・バス乗車券売場（ICカード「エミカ」チャージ機）が設置されているものの認知度が低い。
- ・駅西口からバス乗り場まで歩道がなく、自家用車やタクシーの動線を歩かなくてはならないため危険である。
- ・停留所標識がたくさん並んでおり、どれを見ればいいのかわかりにくい。
- ・電車を降りて、どちらの出口に出ればよいのかわかりにくい。
- ・東口バス乗り場付近に設置されている名張市のPR看板はロータリー向きに設置されているが、線路向きにも表示することで、鉄道利用者にもPRすることができ、観光利用なども見込めるのではないかと思う。
- ・バス路線図で距離感、方角がつかめない。
- ・目的地までの所要時間がわからない。
- ・停留所にバス運行会社等の連絡先表示がなく、どこへ連絡してよいかわからない。
- ・東口の停留所に1番、2番、3番乗場の表示があるが、どこにもその案内がなく、

番号の意味がない。

- ・駅の改札を出たところの案内が不十分。

○ナッキー号

- ・路線図が掲示されているが、小さくて見にくい。
- ・乗り心地は悪くないが、立っていると高齢の方にはかなりの負担になりそうだと感じた。
- ・車内及び座席が狭い。
- ・バス後方の段差が大きく、高齢者や障害のある方には利用が難しい。
- ・車内アナウンスでルート案内があれば、初めての方でも安心して乗車できると思う。
- ・アナウンスが聞こえにくい。
- ・停留所名は、地名よりも「〇〇前」とした方が、利用目的が明確になりわかりやすい。
- ・車内広告が少ない。
- ・高齢者向けに停留所案内のアナウンスに近隣の施設名等を入れてはどうか。
- ・車外の電光掲示がわかりにくい。

○ほっとバス錦

- ・車内アナウンスがない。
- ・車内の広告が多すぎる。また、表示方法もきれいでない。
- ・車内に路線図がない。
- ・乗車時にアナウンスがあれば、初めての方にも安心して乗ってもらえると思う。
- ・車内で両替ができないことを、乗車前に案内しておくことが必要。
- ・ナッキー号と比較して、座席の広さはまずまずである。乗り心地も良い。

<質疑応答、意見等>

(質問) いろんな意見、要望がある中で、どこが取りまとめるのか、市なのか、観光等の団体なのか、ということが見えてこないがどうか。

(回答) 音頭をとっていくのは地域公共交通会議になると思う。停留所の表示に載せる情報は共通のものにするというルールを決めるなど、公共交通会議としてのバス停留所設置ガイドラインを提案するなどが考えられる。

(意見) 一つの停留所で路線によって名前が違うところもあった。

(意見) 市役所前の停留所でもナッキー号とほっとバス錦で停留所名が違う。まだここは

わかりやすいが、桔梗が丘駅は駅出口の表記が、鉄道では南北、バスでは東西とまちまちである。

(質問) そういったところを統一していく働きかけはどこがするのか。

(回答) 市から提案させていただくべきだと思う。

(意見) 停留所の時刻表も縦向きや横向きなどいろいろあって見にくいので、わかりやすいひな形を決めて、同じ様式に統一してはどうか。

(意見) そういうガイドライン的なものを交通会議に提案してはどうか。

(意見) 運賃も統一でないし、車内で両替ができない場合もあり、そういった点の注意書きなど、統一された様式で作られていると見やすいと思う。また、系統別に路線図の色と停留所の色を合わせておくとわかりやすい。お金のかかるものでなくても、パウチなどでもよいと思う。

(意見) 所要時間がわからない。主な所だけでも時間を入れるという工夫もあると思う。はたっこ号の停留所だと発時間が記載されているだけであり、普段から使い慣れた地元の人であれば良いが、古墳群を見に行きたいというときにどうやって辿り着くかわからない。表示板をもう1枚設けて、馬塚までは何分など、主だったところの着時間も標示をしていくという工夫がいると思う。

(意見) それぞれの停留所の表示の中で、古墳群など、地域の特色のある場所への行き方や所要時間などを掲載しておけば、観光振興につながっていくのではないかな。

(意見) みどり号の停留所は、地域の子どもの書いた絵を掲示しており、良い取り組みだと思う。

(意見) バス協会でもバスの絵を募集しており、本年度も県内各小学校へ依頼する予定だが、入選作品はバスの車体の外側にコピーされて運行されている。ただ、外に印刷するだけでは外から見るだけで乗ってくれないので、中にも作品を掲示するようにしている。

(質問) ナッキー号は、ほっとバス錦と比較すると広告が少ない。小学校の子どもの絵を車内に展示してあげれば、広告収入にはつながらないが、市民の足としては良い取り組みになるのではないかな。

(回答) 現在、ナッキー号の広告は車外のみとなっているが、車内の広告についても検討している。車内のスペースは限られているので、タブレット端末のようなモニターを設置して、広告やポスターが随時切り替わっていくようなものであればスペースの問題もクリアできるのではないかと考えている。

(質問) 市民の足という位置づけのコミュニティバスから言うと、自分の子どもの絵やおばあさんの作品が展示してあるなど、走るギャラリーという取組も興味を持って

もらうという点でよいのではないか。

(回答) 車内モニターも、企業広告だけでなく、ナッキー号で行ける地域のイベントなどの情報を流すなど、バス自体が情報の発信源になればよいのではないかと考えている。

(意見) ナッキー号の後輪タイヤの上部分に座ると、体が振られて疲れる。ギャラリーを楽しむ余裕はないのではないか。ほっとバス錦と比較してみると、ほっとバスの方が幅も少し広く、後部の段差も低い。

(意見) ナッキー号の時刻表を見ていると、名張駅西口を出発して沖津藻大橋にたどり着くのは1時間後である。駅によりながら地域を回るというこのルートに意味があることは分かるが、結果的にはそういう現状がある。これも一つのやり方だと思うが、もっと合理的な方法があるかについても検討していく必要があると思う。

(回答) 沖津藻大橋であれば、各便始発の名張駅から乗らなくても、次に名張駅に寄った際に乗れば短時間で到着する。すべての利用者のニーズに合わせることはできないので、利用する側が時間調整をしてもらうことも必要である。

(意見) この案内表示では、事前によほど勉強しないとコミュニティバスを利用しづらい。名張市では町の中心がある程度決まっていることから、そこを常に循環する路線にすれば1周にそれほど時間はかからないので、そこへ各地域から放射状にはたっこ号などのコミュニティバスでつなげてくればよいのではないか。

(回答) 運行開始時のももとの市街地循環の考え方はその通りである。駅を中心として循環するルートで運行してきた中で、要望等を受けて部分的にルートを追加してきた経緯がある。現在でも要望を受ける中で一番多いのは、地域へのナッキー号の乗入れである。この要望に応えれば応えるほどコンパクトさが失われ、市街地循環とかけ離れたものになってしまう。そこで、市街地循環と地域コミュニティバスの役割分担について、再検討していく必要があると考えている。

(意見) 今日、ナッキー号に乗車した際に、前の座席に女性の二人組が座っていた。この二人は普段はご主人の車で移動しているが、今後のことを考えて、ナッキー号をどう利用できるか、試しに乗ってみたということであった。こういった時間があるって、スローライフでいこうという方々を増やしていくことが必要であり、そのためにはどういった情報提供をしていくかということが重要である。

(意見) ごみの収集日の情報を広報で毎年お知らせしているが、コミュニティバスもこのように情報提供を行っていけば、自分の生活サイクルの中に公共交通を取り入れようという人がもっと増えてくるのではないかと思う。普段バスを利用する際には、乗降するバス停まで事前に行って時間を確認しているが、この情報が家にあ

ればもっと公共交通が身近なものになると思う。

(質問) 三重交通の車内で「〇〇病院前」といったアナウンスがあるが、病院等から協賛金を得ているのか。録音で対応するのが設備的に難しければ、運転手に直接言ってもらえる方法もあるのではないか。広告収入の問題でもあるが、乗っている人からするとものすごく親切である。

(回答) 他市の事例でも見られるバス停オーナー制度などについても検討していく必要がある。

(意見) 地域住民の日常移動手段という利用と、観光に来た人の利用の2つを満たす方法を取らないと生き残る道はないと思う。停留所の表示にしても、日常的に利用している地域住民は分かっているというのではなく、地域外の方や観光利用者にとっても分かりやすいということが必要である。

(意見) コミュニティバスであれ路線バスであれ、利用者の利便性確保のために最善を尽くす必要がある。

(意見) 名張市の場合は、地域が主体となって運行しているため、もともとが生活路線として考えられている。利用者は地域住民なので、アナウンスや停留所の表示がなくても分かっているが、観光利用や地域外の方の利用を視野に入れていくのであれば、そういった部分を提案していかなければならない。

(回答) これまでは各コミュニティバスの地域単位での検討にとどまっており、全体のバス路線網として考えていく意見を調整する機会を十分に設けられていなかったが、今後、立ち上げを検討している(仮称)運行協議会ネットワークにおいて、これまでの生活路線としてだけでなくネットワークとして必要な情報提供の仕方を検討していきたいと考えている。

(意見) 地域の移動を確保するために運行協議会を中心として取り組んでいるが、今後は、名張市への来訪者を地域住民としてどう歓迎するかという視点も必要であると思う。

(意見) 地域のボランティアの方に、利用者の話し相手や案内役としてバスに乗り込んでもらったり、駅のバス乗り場で案内してもらおうというのも一つの手法であると思う。他市の事例では、夏休みに学生が乗り込んでいるところもある。

(意見) コミュニティバスは土日が運休であるが、観光を視野に入れていくのであれば、土日の運行も検討していかなければならない。

(回答) アンケートを実施すると土日運行に関する要望は非常に多いが、土日は家族が休みであるため、家族の送迎で出かけるということも多いのではないかと考えられる。実際のところは、社会実験等をしてみなければ分からない。

(まとめ) 本日本体験した中で全体を通じていえることは、案内が不親切であるということだと思ふ。外部から来られる方だけでなく、市内の利用者に対してもそうであるので、何らかのアクションを起こしていく必要がある。

今後はそういった議論を進めていきつつ、また機会があればバスに乗ってみるということもしていきたいと思ふ。今後の取組としては、バスマップの作成や駅・主要バス停における案内表示の整備、利用促進イベントの計画、実施等を中心に取組んでいくこととする。

4. その他

次回開催の日程は5月23日または30日のいずれかに開催